

かんがえよう やっていいこと わるいこと

く おみせのなかでく

(低学年用)

作：神奈川県警察本部少年育成課 小島久美子

絵：神奈川県警察本部少年育成課 平野洋子

## 【表紙】

演出ノート

それでは

・ナレーションはゆっくり

「考えよう。やって良いこと、悪いこと。お店の中で」の始まり  
始まり。



## 【場面】

演出ノート

のび男君とすね太君は、同じクラスで仲の良い友達です。

休み時間、二人は、新発売になった「ドデカチョコ」のことを話しています。



- ・ ナーシヨンはゆっくり
- ・ 元気に明るく

すね太 「ねえ、のび男君、新発売になったドデカチョコ、すっごく、おいしいよ。」

のび男 「あっ、あれね。この前、食べたけど、おいしいよね。」

のび男君が答えると、すね太君は、

すね太 「今日さあ、学校が終わったら、一緒にコンビニに買いに行かない？」と誘いました。

のび男 「うーん。でも、今、お小遣い、あんまり持ってないんだ。」

のび男君は、迷っていましたが、すね太君は

すね太 「安く売ってるかもしれないし、とにかく、行ってみようよ。」

と、のび男君を無理やり誘いました。

- ・ 迷った様子で
- ・ 少し強い口調で

こうして、学校が終わった後、二人は一緒にコンビニへ行く約束をしたのです。

【場面②】

二人は、学校が終わった後、コンビニへ行きました。  
新発売のドデカチョコは、棚に沢山並んでいます。  
値段は五十円でした。

ところが、のび男君の持っていたお金は三〇円。すね太君は、  
昨日も買っていたので、十円しか持っています。



演出ノート

・ナレーションはゆっくり

のび男 「あーあ。今日は、買えないや。仕方ないね。」

でも、すね太君は、

すね太 「僕、どうしても、食べたいよ。のび男君もそうだよ。」  
と、諦め切れないように言いました。

のび男 「うん。せっかく、来たので、買えなくてがっかりだよ。」  
のび男君も、残念そうに言いました。

・がっかりした様子で

・わがままな感じで

・同調するように

【 場面 ③ 】

演出ノート

すね太君が言いました。

すね太 「のび男君。こんなに、沢山、置いてあるんだから、

一個や二個、なくなったって、分からないよ。

ねえ、今なら誰も見ていないよ。盗っちゃおうよ。」

すね太君は、万引きしようと思ってきました。

のび男 「えっ。」

のび男君は、万引きなんて、考えたこともなかったので、驚いてしまいました。

でも、すね太君は

すね太 「大丈夫だよ。平気、平気。やろうよ。」

と強引です。のび男君は、怖くなり

のび男 「でも、見つかったら、大変なことになったでしょうよ。」

と言ってきました。

のび男君は、心の中で、やらない方が良いと思いました。

でも、『すね太君の誘いを断るのは悪いなあ。』と思っこのうち、すね太君の言うとおりの、『一個くらいならならぬ』と平気かなあ。』とこの気持ち持ちはなりました。

すね太君は、うしろでも迷っているのび男君に、言ってきました。

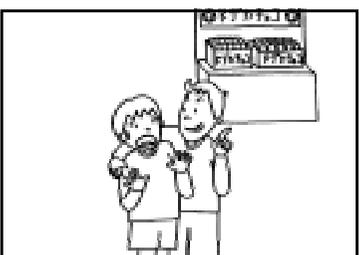
すね太 「なんだよ。のび男君は、万引き、できないの。弱虫だなあ。」

『万引き』というのは、お店の物をお金を払わず、盗ってしまっこのびドロボウ  
かぬじゅうわ。

(1) (1)で、文字画面 まんびき ドロボウ せつじつ はたぬこ をボードに貼る。( )

ドロボウのことを難しい言葉で説明し、盗り、盗り、盗りは警察に捕まる犯罪です。

そなたは、のび男君は、すね太君に誘われて、この盗りか見てみましょう。



- ・ナレーションはゆっくり
- ・小さな声で

- ・驚いて

- ・無理強いする感じで

- ・嫌がる様子で

- ・意地悪く

- ・説明するよう

【場面④】

演出ノート

店長 「こら。なにやっているんだ。万引きしたな。」

のび男君とすね太君は、万引きをしたのです。そして、店長さんに捕まってしまいました。

のび男君が言いました。

のび男 「あっ。じっ、じめんなねえ。」

すね太君が、平気って言ったから、やったんです。許して下さい。」

すね太君が言いました。

すね太 「じめんなさい。もう、二度とやりません。」

だから、お母さんには言わないで下さい。」

店長は、二人を睨みつけながら言いました。

店長 「何を言っているんだ。」

誰に誘われようが、万引きをすれば、それはドロボウだ。

万引きはドロボウ、ドロボウは窃盗という犯罪だよ。

犯罪を犯せば、お母さんに怒られるだけじゃない。警察に捕まるんだ。

二人ともこっちに来なさい。」



・大きな声で怒って

・ナレーションはゆっくり

・あわてた様子で

・お願いする感じで

・大きな声で怒って

【場面 ⑤】

演出ノート

のび男君のおとうさんとおかあさんが、警察署に行き店長さんとお巡りさんに謝っています。

お巡りさんが言いました。

警察官 「おたくのお子さんは、友達のスネ太君と一緒に、万

引き」という犯罪を犯したので、警察署に来てもらひ



ました。

すね太君には、今、他の警察官が、厳しく話をしています。

のび男君は、「すね太君に誘われて、一緒に万引きをした。」と言ってい

ますが、どちらが言い出そうが、万引きをすれば、罪の重さは同じです。」よ。

お巡りさんの話を聞き、お父さんが言いました。

お父さん 「申し訳ありません。

家に帰って、どんなに悪いことをしたのか、子どもに教えます。

」迷惑をおかけしました。」

店長さんが言いました。

店長 「」迷惑をおかけしました。』では済みませんよ。

私は、小学生でも許しませんよ。万引きは立派な犯罪です。

万引きを許していたら、店は潰れてしまひますよ。」よ。

お母さんが言いました。

お母さん 「ごめんなさい。

子どもが、万引きをしたのは、私達、親が、きちんと子どもに教えてい

なかったからです。私達、親の責任です。本当に、申し訳ありません。」

・ 申し訳ない気持ちで

のび男君は、お父さんとお母さんが、自分のことでは、お巡りさんや店長さんに怒ら  
ね、何度も、何度も頭を下げて謝っている姿を見て、悲しい気持ちになりました。

」何で、万引きをしてしまったんだろう。」「と、やったことを悔やみました。

・ ナレーションはゆっくり  
・ 厳しい口調で

・ 紳士的に

・ 大きな声で怒って

【場面⑥】

演出ノート

お巡りさんと、次の日も警察署に行く約束をしたのび男君は、お父さんとお母さんに連れられ、夕方、家に帰ってきました。



・ナレーションはゆっくり

お父さんは、のび男君に聞きました。

・厳しい口調で

お父さん 「のび男。どうして、刀引をさせたんだ。」

・言い訳するように

のび男 「どうしても、ドデカチョロが食べたかったんだ。

　　だけど、お小遣いが足りなくて

　　それに、すね太君に誘われて」

のび男君が口ごもっているところ、お父さんは、怒ったような、悲しいような顔をして

　　言いました。

お父さん 「いいか。これから、のび男、大切なことを三つ話すぞ。まず、ひとつ目

・諭すように

だ。」

【場面 ⑦】

演出ノート



(このとき、文字画面 万引き ドロボウ せつとう はんざいの下に

文字画面 じぶんのものほかの人のものをくへつする。 を貼る。)

お父さん 「それは、『自分の物と他の人の物を区別する。』といじことだ。

・諭すように

のび男は、自分の物と他の人の物の違いは、分かるな。」

のび男君は、うなずきます。

お父さん 「お店には、沢山の品物が並んでいるけれど、それは、全部、自分の物ではない、お店の物だろう。」

のび男、他の人の物や、お店の物を勝手に持ってきたら、それは、ドロボウなんだよ。

迷惑をかける、とても悪いことだ。

のび男だって、自分が大切にしている物を他の人に持っていかれたら嫌だろ。」

のび男君は、お店の中で、一 個位なら、盗っても良いような気持ちになったことを

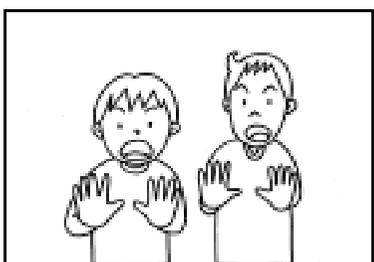
・ナレーションはゆっくり

思い出し、恥ずかしくなりました。



【場面 ⑨】

演出ノート



(このとき、文字画面　じぶんでかんがえる。そして、ただし  
じじいじいをよめる。　の横に、文字画面　じいじいじいをまつ。　を貼る。)

お父さん　「三日月は、『強い心を持つ。』とじいじいだ。」

のび男　「強い心。」

お父さん　「そうですよ。」

・諭すように

・分からない様子で

・諭すように

友達が悪いことを誘ってきただけ、じいじいも『発っこ。』と悪いことばかりせず、  
自分は、絶対に正しい行動をとる強い。

そして、友達のためにも、『ためだよ。』と言って、悪いことはめめせせの  
強い。

それが『強い心を持つこと。』とじいじいなんだ。

『強い心』とじいじい、『悪いことはめめせせ。』とか、『けんか』強い。  
とじいじいではなごうだよ。

すね太君に注意ができないからと、一緒になって、悪いことをしてしまっ  
のは、心が弱いからだ。」

のび男君は、「すね太君に注意ができます、万引をした自分は、弱虫だったんだ。」と、

悔しい気持ちになった。

・ナレーションはゆっくり

お父さんはのび男君に聞きました。

・強い口調で

お父さん　「のび男、今、話した三日月のじいじ、じいじだよ。」

【場面】⑩

演出ノート

のび男 「うん。僕、三つまで、あげるぞ。」

のび男君は、正しい行動をとることを、強い心を持つことは、とても大切なことだと思います。真剣な気持ちで答えました。

お父さん 「そうか。じゃあ、この三つを守ってほしいよ。のび男

とお父さんの約束だよ。

お父さんは、お前のことを信じているからだよ。」

お母さん 「お母さんも、のび男のことも、信じているからね。」

お母さんも、優しく言いました。

・優しく

のび男君は、お父さんとお母さんに「お願い」といわせました。そして、万引をしたことを心から反省しました。

のび男 「お父さん、お母さん。」

僕、ずっと、信じてもらええるように、絶対、約束は守るよ。

今日は、本当にめったなこと。

僕、これから、すね太君を誘ってお店の人に謝ってほしい。

お母さんは、のび男君の頭をなでながら言いました。

お母さん 「のび男、大事なことを気付いたわね。」

店長さんに心から謝って、反省している気持ちをお伝えしよう。

そうすね太、きいて、お店の人は、『も、う、のび男達に万引させられない。』

「う。う。みんな、一緒に謝ります。」

お父さん 「お、お父さん、さ、さ、一緒に行ってあげよう。」

・紳士的に



・元気に真剣な気持ちで

・ナレーションはゆっくり

・紳士的に

・素直な気持ちで

・優しく

【場面 ⑪】

演出ノート



お店には、のび男君、すね太君、それぞれのお父さん、お母さんの六人で謝りに行きました。

・ナレーションはゆっくり

そして、次の日、のび男君とすね太君は、学校の休み時間に「これからは、絶対に悪いことをするのはやめよう。」と約束しました。



・語じかける場面

「だっし」物々々々。さっし取っしよ 舞っしよ さっしおのちん」の機軸面はおご  
まごまご。

紙機面を思し

「だっしおさう、おおの物をお金を払わす持っしおさうまっしよお、しっさ

舞っしよなをだ。」

やっしよが、分かつたどっちひな。

万引きは、絶対しおっしはさけませぬ。

さっしお、さっし取っしよが、舞っしよかをつっさのきえ、正っし行動をよっしお  
まごまご。